

タブレット端末視察報告書

出席議員等	田畑 仁議長・岡田 好子副議長・山本 優真議員・原口 悠介議員・金子 健太郎議員・河部 優議員・梶本 茂騏議員・森 裕文議員・古谷 公俊議員・堀口 和弘議員・澁谷 昌子議員・竹田 光良議員・大森 和夫議員・和気 信子議員・谷 展和議員・南 良徳議員 (随行：議会事務局 西出誠司、川口哲生、港晃希、羽場隆弘)
実施年月日	平成29年8月25日(金)
視 察 先	兵庫県 丹波市 兵庫県 篠山市
視 察 項 目	丹波市：タブレット端末を活用した議会運営について 篠山市：タブレット端末を活用した議会運営について
視 察 内 容 ●兵庫県丹波市(10:30～) 太田丹波市議会議長及び安田事務局長よりご挨拶を受けたのち、柿原庶務係長より、以下の説明を受ける。 ① 導入状況について ○導入時期：平成26年11月 ○導入台数及び導入対象者(議員・職員)：議員20台+事務局3台 計23台(市当局は導入なし) ②導入端末について ○端末名及びサイズ：エクスペリアZ2 10.1インチ エクスペリアZ4 10.1インチ(平成28年11月更新) ○選定理由：Wi-Fi+Cellularモデルである。画面の大きさ、防水・防塵である。 ○選定方法：機種は定めず、仕様書に基づき見積もりを徴取。機器購入費及び2年間の通信費の総額で最安値の業者と契約 ○使用感(使いやすさ)：特に不便さは感じない。文書共有システムアプリの反応が遅い。 ③故障・紛失対応について ○故障・紛失時の対応：要綱に実費弁償の規定を設けている。通信事業者の補償サービスにより、1回目5,000円等の上限あり。 ④端末の持ち出しについて ○持ち出しの可否：持ち出し可 ⑤Wi-Fiの環境について ○Wi-Fiの有無：なし ⑥電波契約について ○契約先：KDDI株式会社(a u) ○契約内容：法人LTEフラットforTab(月間データ容量7GB) ⑦クラウド・グループウェアについて ○文書共有システム：有料 サービス名：Sidebooksクラウド本棚 契約先：東京インタープレイ株式会社 契約内容：ライセンス50人分。ファイル容量 11GB	

○スケジュール管理：無料

フリーソフト ジョルデクラウド

⑧導入費用・運用費用について

○導入費用：タブレット端末購入費（23台） 1,221,944 円。文書共有システム設定等 324,000 円。計 1,545,944 円

○運用費用（年額）：タブレット通信費 772,800 円
（うち、1,000 円／台は議員負担。公費実費 532,800 円）
文書共有システム使用料 863,136 円
計 1,395,936 円

⑨紙の使用量の変化について

○使用量の変化：平成 26 年度 201,183 枚 平成 27 年度 129,830 枚

⑩導入におけるメリット・デメリットについて

○効果的・効率的な議会運営

- ・委員会資料の前日閲覧による審査の深まり
- ・資料の全議員での共有
- ・議員への通知の迅速化
- ・資料検索が容易

○議員活動の充実

- ・いつでもどこでも情報収集が可能
- ・資料の持ち運びが不要

○議会内の情報伝達の迅速化、危機管理上の緊急連絡、情報管理・情報共有

○ペーパーレス化による環境負担の軽減

○議会費の削減

○議会事務局の負担軽減

以上の説明を受け、質疑に入りました。

質疑としては、

●議員としてのデメリットはなかったか。

○高齢の議員もいたが、「習うより慣れよ」で議員同士で教えあった。また事務局も支援し、実際に使用することで、徐々に使いこなせるようになっていった。またタブレット導入後は、連絡ミスが少なくなった。デメリットは感じていない。

以上が、質疑の主な内容であり、丹波市における視察の概要となります。

●兵庫県篠山市（14：00～）

篠山市議会 足立議会運営委員長及び福西議会事務局課長よりご挨拶を受けたのち、樋口課長補佐より以下の説明を受ける。

①導入の経緯について

○ICT先進地視察：千葉県流山市、三重県鳥羽市、神奈川県逗子市

⇒ICT研修会⇒「篠山市議会における情報通信技術の活用を推進するための決議」（平成 25 年 6 月 27 日）⇒議員研修会（平成 25 年 11 月 15 日）

市議会として、タブレット端末の活用、クラウド文書共有システムの導入検討（議運）システムの検討、導入に必要な法改正・ルールづくり⇒システム導入費用の予算化

⇒12 月定例会で補正予算を計上。可決⇒平成 26 年 3 月下旬 タブレット端末の配布、

クラウド文書共有システムの運用を開始

②導入の目的について

- 効果的・効率的な議会運営（情報共有のスピード化）
- 議員活動の充実（膨大な資料の携行、保管）
- ペーパーレス化による環境負荷の低減
- 議員図書室の充実
- 議会費の軽減

③タブレット端末の選定について

- 基本的な考え方
 - ・操作性や安定性が高く、導入による従来の議会運営の変更が最小限となるもの。また導入・運用にかかる費用が小さいものを優先。
- P Cとの比較
 - ①長時間の使用に耐えうる（バッテリー）
 - ②持ち歩きしやすい（重量面）
 - ③起動時間が短い
- 想定する利用形態⇒大量のデータ閲覧。ほとんどの議員がP C等を所有⇒通信費が発生しない、安価かつ回線速度が速く、大容量のファイルも快適にダウンロードできる「W i - F i モデル」を採用⇒リースより安価な、「購入」を選択し、議員へ貸与する方式を採用

④クラウドシステムの選定について

- 紙の資料をクラウド上で電子化⇒端末機で閲覧。
- 専用サーバと比較しても、イニシャルコストが低額
- 契約先がセキュリティー対策を行うことで、より情報管理の安全性を確保できる。
- 先進市である逗子市議会で導入済の、「東京インタープレイ(株)」のクラウドシステムを採用

⑤経費について

- タブレット端末購入費
 - ・ i P a d （W i - F i モデル・16G B）19 台 756,205 円
- クラウド文書共有システム
 - ・ 導入初期費用（初年度のみ） 84,000 円
 - ・ 利用料（59,400 円×12 ヶ月） 712,800 円
- その他
 - ・ L A N改修工事（情報担当課対応）、S i d e B o o k s（ビューアアプリ）無料

⑥端末機の使用範囲について

- ①情報伝達における使用
 - ・ 電子化するデータについては、会議に要する資料をはじめ、議会運営に関する文書とする。
- ②情報収集における使用
 - ・ 議会図書館の充実が予算上の制約で進展しておらず、今後も財政上の制約が見込まれるため、クラウド上で議員活動の活性化に資する資料も充実させていく。
- ③会議における使用
 - ・ 使用の範囲は議会、議員活動とし、原則としてすべての会議に加え、議員活動においても使用可能とする。まずは、議員のみの会議から始め、課題や利用のルール化を整理するとともに、執行部（理事者）の対応等も協議しながら、最終的には本会議での使用までを範囲とする。
- ④その他（導入後のシステム並びに端末機の活用拡大の検討）
 - 【留意した使用基準】
 - ・ 音を発する使用、会議の進行を妨げるような使用は禁止
 - ・ 議員用端末以外の電子機器の使用は議長の許可

- ・音声画像の中継（配信）、録音、録画は禁止（議会として行う）

⑦推進体制について

- 議会運営委員会
 - ・課題整理、運用ルール設計
- ICT推進チーム
 - ・ICTスキル向上に向けた研修の検討・実施

⑧導入効果・課題等について

- 効果
 - ・効果的・効率的な議会運営（情報共有のスピード化）
 - ・議員活動の充実（膨大な資料の携行、保管）
 - ・ペーパーレス化による環境負担の軽減
 - ・各議員のICTスキル向上の契機（フェイスブックやメールの活用）
- 課題
 - ・各会議での活用展開（執行部（理事者）との調整、メモ機能の向上、ネット活用のルール化等）
 - ・議員間のICTスキルの格差解消（底上げ）

以上の説明を受けたのち、実際の端末の操作の説明を受けました。

以上が主な内容であり、篠山市における視察の概要となります。

■総 括

視察については、時間的配分の厳しい日程の中、実施しましたが、市の担当職員による説明に対し、議員から活発な質疑が行われました。また、実際にタブレット端末を操作する機会があり、十分に所期の目的を達成することができたと考えております。

今回の視察により得た内容については、今後の市政に反映させるとともに、市の発展につなげていきたいと考えております。

上記のとおり報告いたします。

平成29年8月31日
泉南市議会
議長 田畑 仁

(丹波市役所前)



(太田 丹波市議会議長 挨拶)



(田畑 泉南市議会議員 挨拶)







(岡田 泉南市議会副議長 挨拶)



(篠山市役所前)



(足立 篠山市議会 議会運営委員長 挨拶)



(田畑 泉南市議会議員 挨拶)







(岡田 泉南市議会副議長 挨拶)

